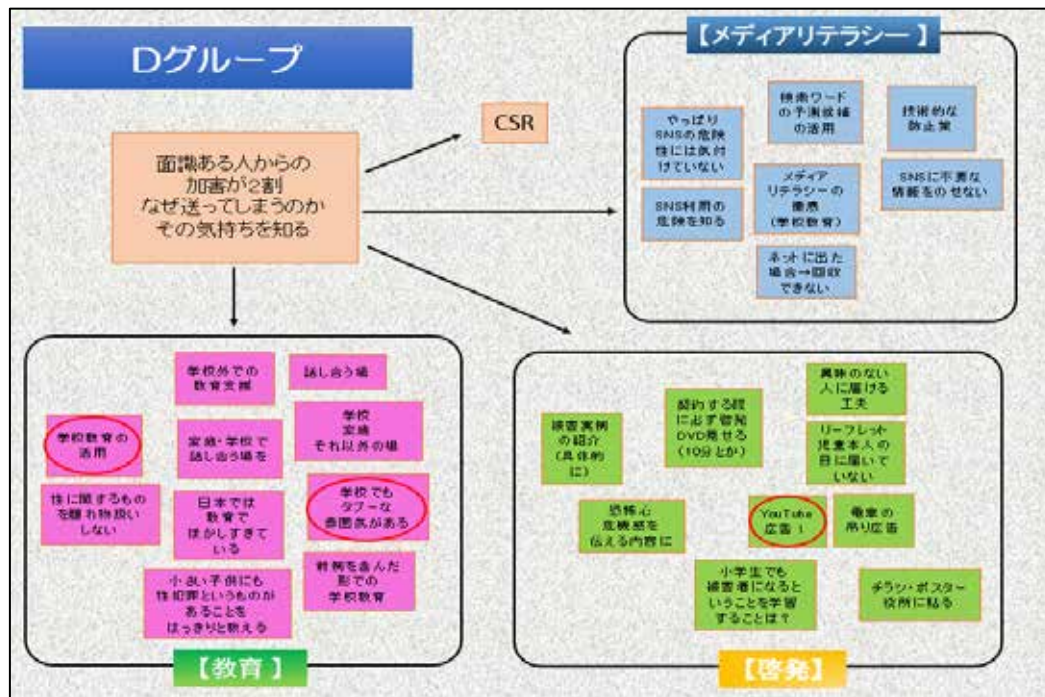


【総括】

被害者のうち2割が、面識のある者から被害に遭っており、相手を信頼して、嫌悪感等もなく送信している者もいるのではないかとと思われる（成人なら「自己責任」という考え方もありえる。）

面識のある児童同士の被害・加害を防止するためには、やはり教育による対策が必要だと思ふ。



Eグループ

グループ構成：7名（高校生2名、大学生・大学院生2名、内閣府職員1名、警察庁職員2名）

【子供の性被害防止のために、何を伝えるか】

画像送信すること、させることの影響

- ・写真を送ることによって、どんなことが起こりえるのか
- ・一度ネットに載ったら消せなくなる
- ・自分や相手への影響を明確に
- ・被害を受けた人のその後の苦しみ
- ・リベンジポルノの危険性

被害の現状

- ・体験談（拡散される怖さ、リアルな実例）を知る（被害者となり得る者が重大さに気付いていない現状があるのではないか）
- ・児童ポルノがどのようなものかを知らない人も多い。
- ・「ダメなこと」を明確に伝える教育
- ・画像送信を求められても、すぐには送らず、一度、他人に相談する。

【どう伝えるか】

SNS

- ・画像を送る前にポップアップでメッセージを出す。
- ・広告（広報）
SNS上に防止の情報を流す。
お笑い芸人など若い人が親しみやすく、影響力のある人を活用
- ・動画（ドラマ）
中高校生が見る時間帯に放映、危険を知ってもらう。
- ・公的機関が広報する。

学校

- ・これまで話題にしたこともないため、生徒同士がディスカッションで児童ポルノについて認識を深める。
- ・学校の授業で怖さを周知する。
（性被害についてあまり教えられない現状がある。一方で、学校が責任を持って教える話ではないため、授業で教えることができないとなると、ホームルーム等の時間に話さざるを得なくなる。授業以外だと生徒が真剣に耳を傾けなくなることが多いので、生徒にとって、話を聞くことが面倒にならないようにする環境づくりが必要）
- ・実際に事件を取り扱っている警察関係者から生の話を聞く。
- ・友達同士で相談し合える環境づくりを行う。

家庭

- ・各家庭に広報資料を配布（携帯電話の使い方等のマニュアルを作成して配布する。）
- ・意識を深めるため、幼い頃から性教育を行う。
- ・どのような被害があるか、家庭でも伝える。

